

2018

6/15

6 月号

皆様と共に考え行動し… 市民に開かれた京都市政を！

京都市会議員

田中 あきひで ニュースレター

発行者
田中 あきひで
発行責任者
稲生 茂一

初夏の候 皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

いよいよ三期目の任期も最終年の四年目を迎えました。本年度は産業・交通・水道委員会の委員長を拝命し、元気に活動させていただいております。

過日の京都府知事選挙、山田府政の継承・発展を掲げた西脇隆俊氏を当選させていただきました。しかしながら、京都市内に限りますと左京区では相手候補が西脇候補を上回り、25,755票差とその差は僅かでした。今後は門川市長との府市協調で京都の発展のためしっかり結果を出していただかなければなりません。私ども議会も行政のチェックと共に、協力し合い、市民の皆様方の負託に応えられるよう取り組んでまいります。

京都市政に目を向けますと、現在の一番大きな課題は民泊対策です。この民泊の条例だけで、二月議会、五月議会、自民党議員団の中で長時間議論しました。観光振興に寄与する民泊施設の確保と、市民生活の安全・安心をどう守るのか。あまり厳しすぎると訴訟に発展するケースも考えられるところでの京都市独自の条例です。徹底して違法民泊は許さないと強い姿勢で臨んでまいります。

米国トラベル・アンド・レジャー誌「ワールドベストシティ」での6年連続ベスト10入りや、英国ワンダーラスト誌「読者投票ベストシティ部門」での2年連続1位など、京都の世界的な評価も確固たるものになりつつあります。

また、平成28年に過去最高の国際会議開催件数



情熱・対話・行動！

を達成するなど、MICE分野においても大きな成果が見られます。

しかしながら、外国人観光客の急激な増加等による混雑やマナーの問題、民泊問題等、いかに市民生活と観光との調和を図るか。今年度の産業・交通・水道委員会の年間テーマに「観光客増にともなう混雑対策」を掲げるとともに、他都市の先進的な取り組みもしっかり調査し、持続可能で満足度の高い国際文化観光都市を目指していかなければなりません。

西京区においても、洛西ニュータウンの活性化、交通の利便性向上、芸大の跡地活用、阪急洛西口～桂駅間のプロジェクト事業等、問題が山積みしています。引き続き皆様と共に考え行動し、市民に開かれた京都市政に向け努力してまいります。倍旧のご指導、ご支援をお願いし、ごあいさつといたします。

京都市会議員

田中 あきひで 事務所

〒615-8227 京都市西京区上桂宮ノ後町38-2 田中ビル3F

TEL 075-204-6128 FAX 075-205-1508

E-mail tanaka_akihide@nike.eonet.ne.jp

URL <http://tanaka-akihide.com/>

活動報告

今年度は産業・交通・水道委員会の委員長を拝命いたしました。

京都市が直面する課題 「観光客増にともなう混雑対策について」
を年間テーマに掲げ議論していくことを決定しました。

「京都観光振興計画2020」の取組みについて

外国人宿泊客数年間300万人、観光消費額年間1兆円を計画期間を前倒しして達成。
消費額の目標を1兆3,000億円に上方修正しました。

計画の目標の達成と課題等への対応

◇計画目標の達成

・外国人宿泊客数 300万人 5年前倒しで達成
(25年実績113万人→28年実績318万人)

・観光消費額 1兆円 4年前倒しで達成
(25年実績7,002億円→28年実績1兆862億円)

◇大きな成果を上げる一方、 様々な課題も発生

- 外国人観光客の急激な増加とマナー問題
- 無許可民泊施設の増加
- 観光客の集中と混雑

- 国内観光地間の競合激化
- 観光の経済効果が広く行き渡っていない
- 伝統産業・伝統文化等の振興につながる仕組みが不十分
- 観光客が奥深い魅力に十分触れられていない

- 観光業やサービス業を支える担い手が不足



新たな環境の変化

- ・文化庁の京都への全面的移転
- ・宿泊税制度の創設
- ・訪日観光客の増加 (国目標の上方修正)
- ・2025年問題 (国内マーケットの縮小)

課題や環境変化への対応

市民生活と観光との調和



国内観光客の維持・外国人観光客誘致の充実

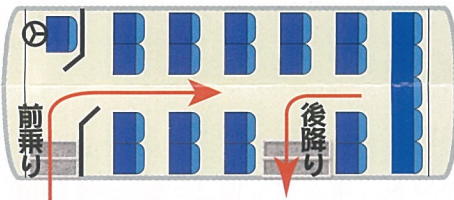
- 観光、産業、文化の融合
- 中小企業の振興、伝統産業の振興
- 伝統文化をはじめ幅広い文化・芸術の振興
- 周辺市街地、山間地域等の活性化

担い手の確保と育成



特に市民生活に直結する混雑対策として

交通局では、市バスの混雑緩和を目指し、平成29年10月及び12月に、前扉を乗車口とし先に運賃をお支払いいただき、車両の中ほどにある広い後扉からスムーズに降車いただく、「前乗り後降り方式」の実証実験を100号系統で実施しました。



京都駅バス停「前乗り後降り方式」実証実験

乗降時間や停留所におけるバスの停車時間の短縮、お客様の車内でのスムーズな移動に効果が認められ、お客様からも好意的な評価がありました。

今後、お客様の安全確保や効果的な事前周知の方法など、本実験を通じて得られた課題への対応も含め、「前乗り後降り方式」を今年度中に100号系統で実施する予定です。



その他の対策として

- ◎ JR西日本等の民間事業者との連携により、関西国際空港等から入洛されるお客様に対し、キャリーバック等を配送する手ぶら観光カウンターや、「地下鉄・バス一日券」等の価格の見直しに合わせた「地下鉄も上手に利用した観光」をPR
 - バス一日券：500→600円
 - 地下鉄・バス一日券：1,200→900円 (二日券：2,000→1,700円)

- ◎ “おもてなしコンシェルジュ”の活動期間を充実し、市バスの乗換案内のほか、「手ぶら観光」や「地下鉄も上手に利用した観光」をPR
 - 11月の平日にも拡充

- ◎ 京都駅へ向かわれるお客様に対し、市バスから地下鉄へ無料で乗り換えられる「振替輸送」の拡充
- ◎ 通勤・通学系統等の路線・ダイヤの充実
- ◎ 多客運送に対応できるラッシュ型車両の導入 (44両)
- ◎ 扉開閉時に注意喚起する案内放送の多言語化



- ◎ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」に向けた取組みにより、市バスの1日当たりのお客様数は36万8千人で、前年度より6千人増、運送収益は11億円の増収が見込まれ、地下鉄の1日当たりのお客様数は39万3千人で、前年度より1万5千人増、運送収益は10億円の増収が見込まれています。

しかし地下鉄においては、企業債等残高見込みは3,553億円に上り、経営健全化団体脱却後は累積資金不足が309億円からさらに増加することや、さらに今後、烏丸線の新造車両や両線の設備更新に多額の費用を要するなど、依然厳しい経営状況に変わりありません。

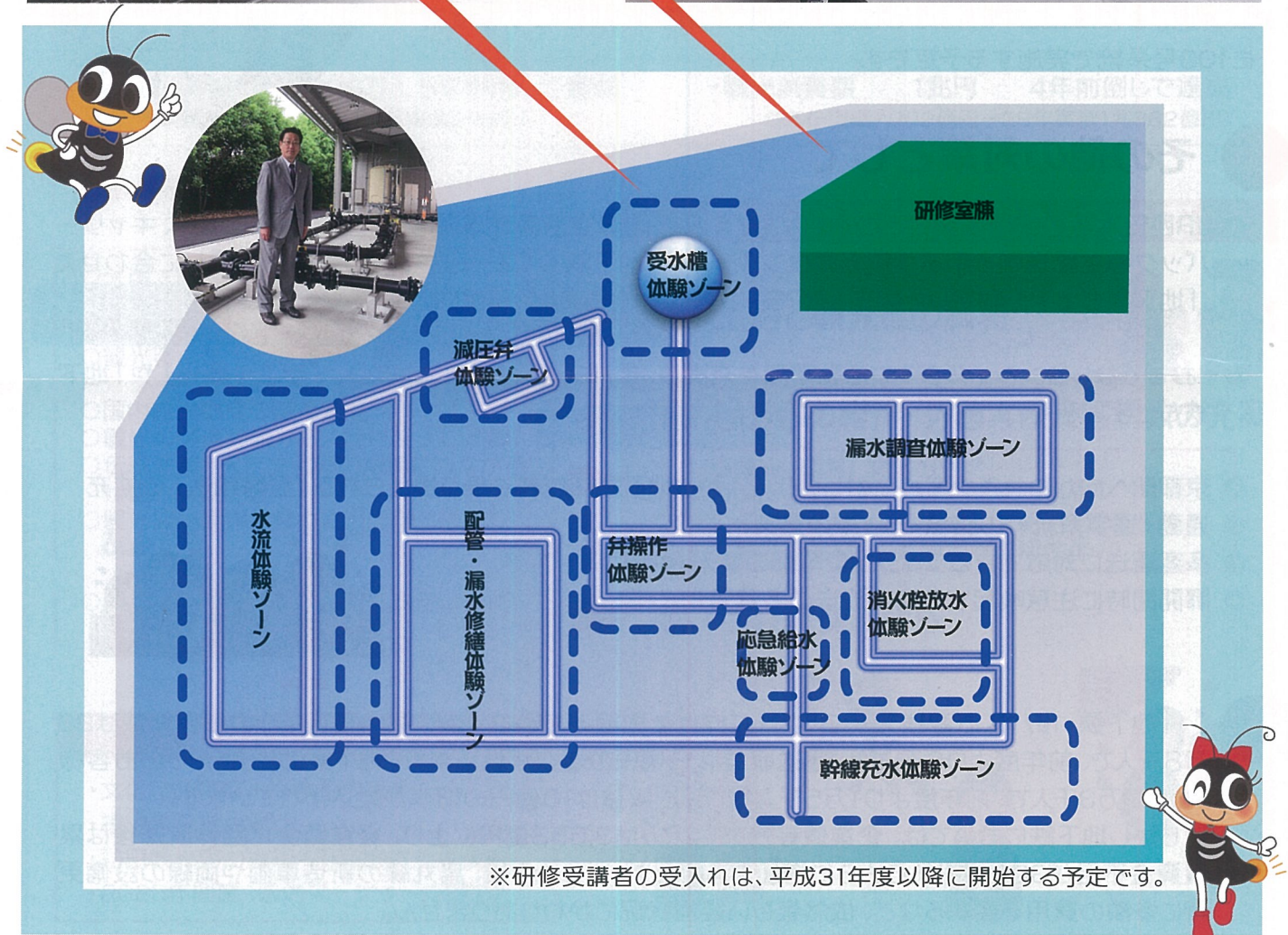
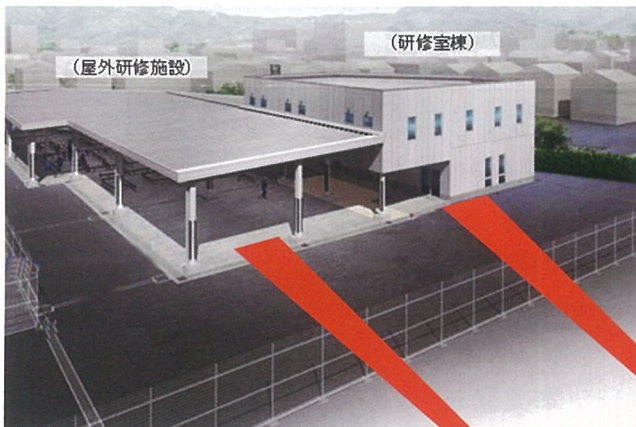
委員会報告

6月8日の常任委員会で

水道技術研修施設を実施視察しました。

水道は、市民生活に欠かすことのできないライフラインです。京の安全・安心な水道水を、将来にわたり安定的に供給するためには、水道事業を支える担い手の育成・確保が不可欠です。

平成30年4月に太秦庁舎内に開所したこの研修施設では、技術職員がこれまで培ってきた技術の維持・継承を行なうとともに、全ての職員の研修の場として、また、技術力の継承発展と担い手の育成を図るため、水道管路の実技が体験できます。



※研修受講者の受入れは、平成31年度以降に開始する予定です。

